



取扱説明書

GN・GH 形 空冷式 エアコンプレッサ

形 式

=====**もくじ**=====

GN-08DS	安全のために必ずお守りください・・・	1 ~ 5
	設置にあたって・・・	6 ~ 7
GN-08D 5/6P	各部の名称とはたらき・・・	8 ~ 9
	お使いになる前に・・・	10 ~ 13
GH-08DS	運転のしかた・・・	14 ~ 18
	定期の整備・保守・点検・・・	19 ~ 27
GH-08D 5/6P	定期点検基準表・・・	28
	不調原因とその処置・・・	29
GH-15 5/6P	仕 様・・・	30
GH-22A 5/6P	サービスと保証について・・・	31

- このたびは、空冷式エアコンプレッサをお買い上げいただき、誠に有難うございます。
- 当製品を安全に、また正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
- お読みになったあとは、必要なときにすぐに取り出せるように大切に保管してください。

この空冷式エアコンプレッサは、圧縮空気を製造する装置です。

はじめに

- この取扱説明書は、空冷式エアコンプレッサの取扱方法と使用上の注意事項について記載しています。なお【GH-22A 5/6P】を代表例として記載しています。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、記載してある使用範囲を守ってご使用ください。また正しい保守点検を行い、故障を未然に防止するようお願い致します。この取扱説明書に記載していない操作、取扱い、明治純正部品以外の交換部品の使用や、改造などを行なわないでください。機械の故障、人身事故の原因になることがあります。これらに起因する事故については、当社は一切の責任を負いません。
- お読みになった後も、いつでも参照できるよう、大切に保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、また警告表示ラベルが破損・剥離・退色して見えにくくなったら、速やかに当社の指定サービス店・特約店・販売店にご注文ください。
- 品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、製品と一致しない場合がありますので、ご了承下さい。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げまたはお近くの指定サービス店・特約店・販売店にご相談ください。
- この取扱説明書の内容を無断で複製、または転載しないでください。

-  印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。



注意

安全な取扱いに対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

これらの安全上の注意は、明治の空冷式エアコンプレッサ使用に関して、より重要な面を補う提案です。お客さまがこれらの安全上の注意等を払わなかった場合、当社は責任を負いかねます。

安全のために必ずお守りください

1. 一般的内容

● 圧縮できる気体

本機で圧縮できる気体は、**空気**のみです。他の気体は、絶対に圧縮しないでください。火災・破損等の原因となります。

● 圧縮空気は人には使用しない

本機で圧縮した圧縮空気は、**人の呼吸用や人体には使用できません**。呼吸用・人体に使用すると、呼吸困難や呼吸障害などをおこし、死亡の原因となります。

● 屋外使用時の処置

屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ち入る場所で使用するとき、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるなど、安全上必要な処置を行ってください。

● 予備機の備え

重要な製造設備等に使用される場合は、製品の保護装置の作動・故障・不具合などによる圧縮機の停止に備えて、予備機やそれに代わる装置をご用意願います。

● 火傷の注意

運転中・運転直後は、コンプレッサ本体の各部、接続管、空気タンクなどは高温になっていますので、手など触れないでください。手など触れますと、火傷の原因となります。

● ベルトガードは外さない

ベルトガードを外しての運転は、回転部に手や衣服が巻き込まれて非常に危険です。

● 回転部に近づかない

運転中はベルト車・プーリ・Vベルトに、手・指等を近づけないでください。回転部に巻き込まれると、重大な事故を起こす危険性があります。

● 火災・爆発に注意

火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料など）のない場所に設置してください。もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を与えます。

● 感電の注意

濡れた手で電気部品に触れますと、感電の原因となります。

● 機器の上に乗らない、または物を置かない

転落・落下によるケガ、圧縮機の破損、性能低下等の原因となります。

2. 運転するとき

● 運転中の注意

コンプレッサが圧縮運転を始め、空気タンクの圧力が停止圧力に到達すると運転がGN形はアンロード（無負荷）運転、GH形は停止します。また、空気タンクの圧力が低下し復帰圧力になると自動的に圧縮運転を開始しますので、運転状態のときに、回転部に手や顔を近づけないで下さい。

停止圧力 (MPa)	復帰圧力 (MPa)
0.98	0.78

● 火傷の注意

コンプレッサ運転中・停止直後は、圧縮機本体のシリンダヘッド・シリンダ・吐出管等に触らないでください。やけどの原因となります。

● 回転方向の確認

電源接続後、必ず回転方向を確認してください。（P.13 参照）
コンプレッサの過熱による破損・事故の原因となります。

● 多量の水分・液体を吸込まない

吸込む空気の中に多量の水分・液体が混入した状態で圧縮すると、液圧縮を起こし、本機の損傷の原因となります。

3. 保守点検のとき

● 点検・整備の実施

点検・整備を定期的の実施してください。破損・事故の原因となります。

● 点検・整備の時は主電源を切る

本機を清掃・点検整備をするときは、必ず主電源を「切」にし、「整備中」であることを明らかにして作業に入ってください。回転部に、手や衣服が巻き込まれたり、感電の恐れがあり大変危険です。また、圧力があるにもかかわらず、部品の交換をしようとすると、その部品が飛び、ケガや建造物破損などの危険性があります。

● 使用する部品・オイル

部品交換をする場合は、必ず明治純正部品を使用してください。また潤滑油においても明治純正オイルを必ず使用してください。

● 改造しない

製品の改造、及び部品の改造は絶対にしないでください。

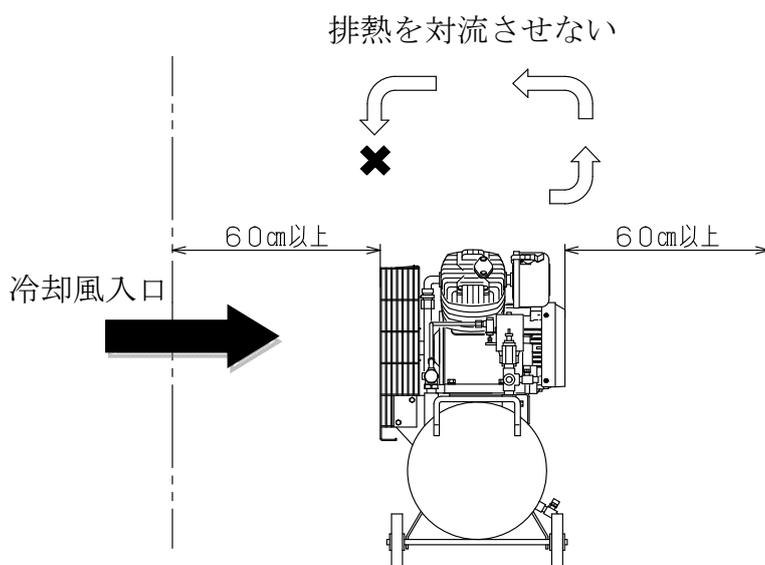
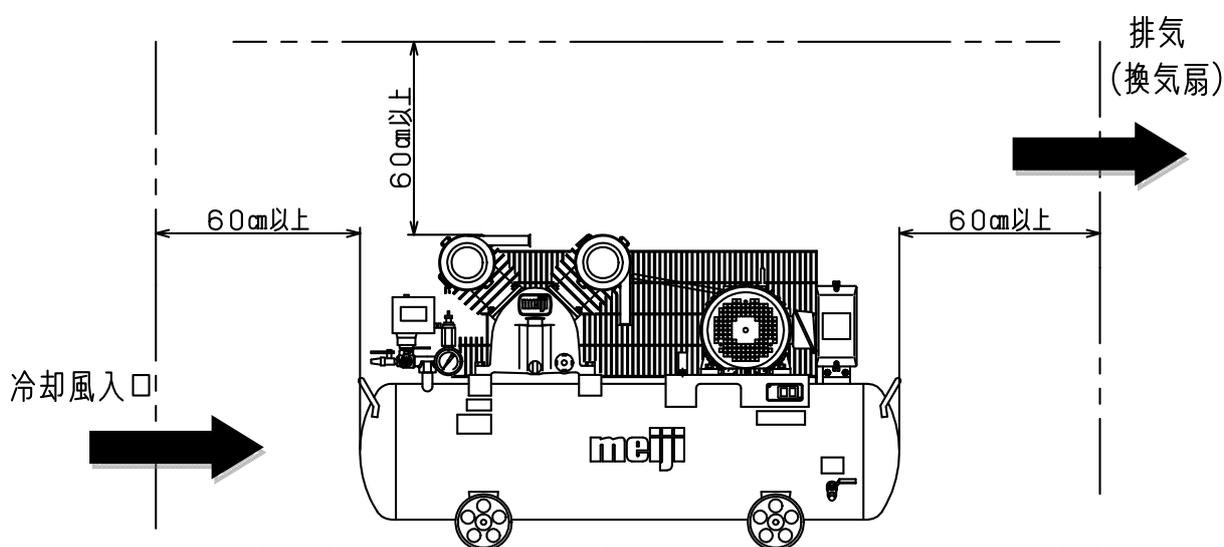
● 作業前・作業後に必ず点検

本機を使用する前に必ず潤滑油の確認・異常音・異常振動の確認などの始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。
また、作業終了時も点検を実施し、異常がないかチェックしてください。

4. 据え付けするとき

● 設置場所は、清潔で室内温度が2～40℃の範囲

1. 室内で明るく、広く、風通しの良い場所に設置してください。
2. 鉄粉・粉塵・ゴミ・水分などを含まない清潔な空気が吸入できる環境にしてください。
3. 室温は運転中に40℃を超えないように換気扇を設けてください。
 周囲温度が高くなり、熱が滞留すると寿命の低下、焼付きなど故障の原因となります。
 また、0℃以下ではドレンの凍結により、故障の原因となります。
4. 充分強度のある水平な床面で、すべての車輪が接地するように設置してください。
5. 輸送時の台木は外して設置してください。故障の原因となります。
6. 壁より60cm以上離し、風通しを良くし、保守点検が容易に行えるように設置してください。



● 必要換気容量

必要換気容量は、室温上昇を5℃以内に保つ為に必要な換気容量です。
 (m³/min)

形式	必要容量
GN-08DS	8
GN-08D 5/6P	8
GH-08DS	8
GH-08D 5/6P	8
GH-15 5/6P	16
GH-22A 5/6P	24

※各吸排気口が塞がれる恐れがないことを確認してください。

● 配管について

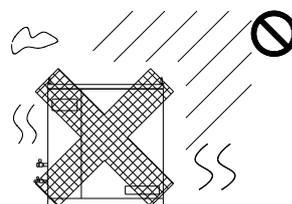
コンプレッサと工場配管の接続は、耐圧・耐熱性を有するゴムホース
(使用圧力：1MPa 以上、耐熱 100℃以上 JIS K 6379 相当品) をご使用ください。
振動による配管・圧縮機などの損傷を防ぎます。

● 起動・停止の頻度が高いとき

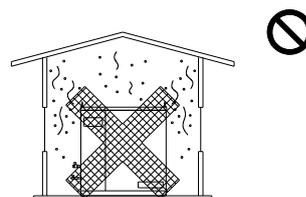
起動・停止の頻度が高い運転状態で長い時間使用される場合は、各 부품の早期摩耗の原因となり、寿命の低下につながりますので、サブタンクを設置し、発停頻度を低くしてください。



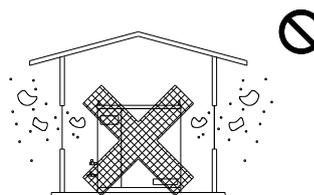
湿気が少なく、雨などの水滴のかからない場所で
運転してください。
(漏電・感電の恐れ、各部の発錆、寿命低下の
原因となります。)



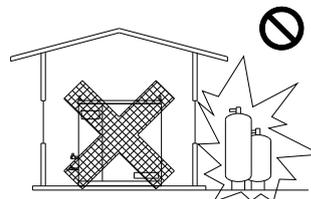
アンモニア・酸・塩分・オゾンガス・亜硫酸ガス
などの腐食性ガスのある場所で、使用しないで
ください。
(発錆・寿命低下・本機破損の原因となります。)



鉄粉・砂じん・粉じん・木くず・繊維くず・油分
などの異物がかかる場所では、使用しないで下さい。
(吸込ろ過器フィルタの早期目詰まり、寿命低下、
本機の破損、爆発事故の原因となります。)



近くに爆発性・引火性ガス（アセチレン・プロパン
ガスなど）有機溶剤・爆発性粉じん及び火気のある
場所で使用しないでください。
(火災・事故の原因となります。)



5. 運転中のとき

● 停電したら

運転中に停電した場合、主電源・押しボタンスイッチが入った状態の場合、停電復帰すると同時に運転開始する場合がありますので、回転部には手や衣服を近づけないでください。

停電中は一旦主電源を『切』、押しボタンスイッチを『OFF』にしてください。

停電が解除された後、再起動させる場合は、空気タンクの圧力を『ゼロ』にしてから起動させると起動時のモータ負荷が軽減されます。

圧力スイッチが作動する直前に停止していた場合、その状態で再起動するとモータに過負荷となりモータ損傷やサーマルリレーが作動する恐れがあります。

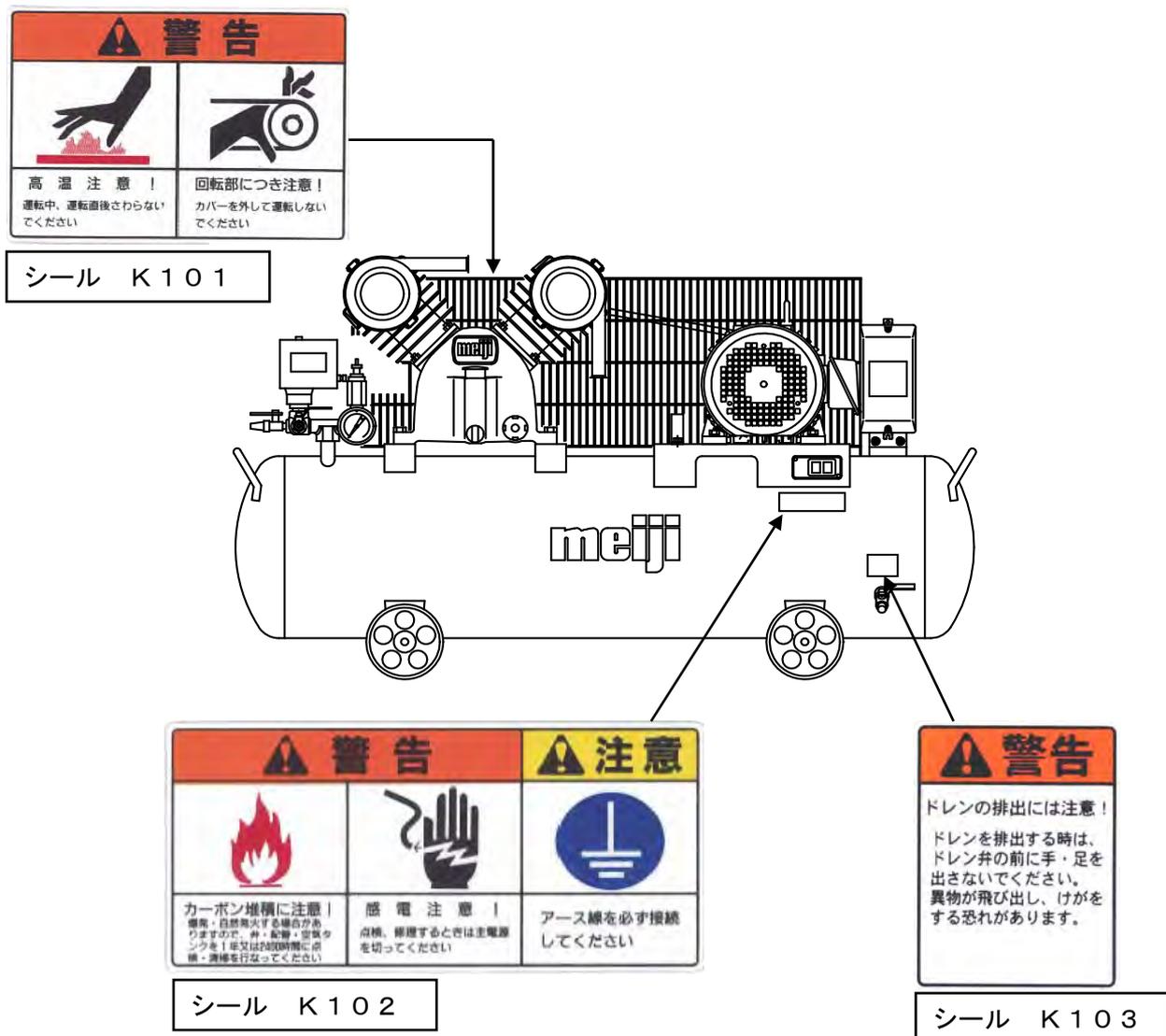
● 異常な振動・音などが発生した場合

運転中、異常な状態が発生したら、直ちに運転をやめてください。

そして速やかに、購入先または指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所にご相談ください。

異常な状態で運転を続けると、コンプレッサの破損・感電・火災などの原因になります。

6. 警告シール貼付け位置



設置にあたって

騒音規制法および振動規制法による届け出について

- 規制範囲、規制基準値などの詳細な点は、各都道府県により異なりますので、管轄の区・市役所または町村役場の公害担当課までお問合せください。

電気設備に関する技術基準について

- 電気配線にあたっては、電気設備基準および内線規定に従ってください。
- 電源には、必ず漏電遮断器を一台ごとに設置してください。
- GN-08DS・GN-08D 5/6P、GH-08DS・GH-08D 5/6P には、電磁開閉器がついていないため、電動機保護用漏電遮断器を設置してください。
- 必ず接地（アース）工事を行ってください。接地（アース）はD種接地工事を行ってください。

ボイラーおよび圧力容器安全規則（第二種圧力容器）

- 第二種圧力容器について、設置の届け出の義務はなくなりましたが、「圧力容器の取扱い」および「圧力容器明細書」の保管などについては従来通りで、再発行はできませんので大切に保管してください。
- 定期自主検査
圧力容器明細書が添付されている製品のタンクは、第二種圧力容器（※）に該当します。毎年1回以上、次の事項について定期自主点検を行いその記録を3年間保存して下さい。
 - 1) 本体の損傷の有無
 - 2) フタの締め付けボルトの摩耗の有無
 - 3) 管及び弁の損傷の有無

※第二種圧力容器とは

圧力 0.2MPa 以上で内容積 40 L 以上の容器または、
圧力 0.2MPa 以上で胴の内径が 200mm 以上かつ胴の長さが 1000mm 以上の容器
のことです。

※本機にサブ（リザーバ）タンクとして、第二種圧力容器を接続して御使用になる場合も同様に定期自主検査を実施してください。

第二種圧力容器の自主点検要領

点検項目	点検事項	点検方法
本体	1. 胴、鏡板等の腐れ、もれ、ふくれの有無。	腐れについては停止中に。もれ、ふくれについては運転中に点検する。
	2. 安全弁のもれの有無。	空気やガスのもれの有無を確認する
	3. 圧力計の指示不良。	タンク内の圧力が『ゼロ』のとき、圧力計の指針が『ゼロ』をさしていることを点検する。
ふた	磨耗、腐れ、割れ、曲がり、ゆるみの有無。	ふたの締付について点検する。
管および弁	損傷ともれの有無。	

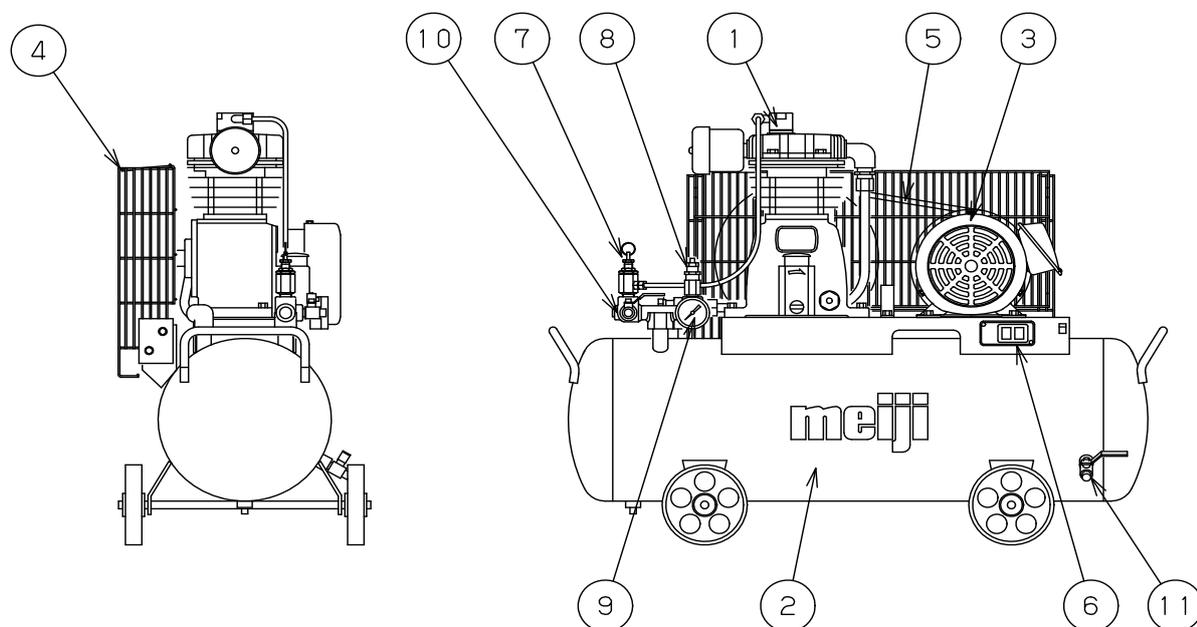
書式例 第二種圧力容器自主検査点検記録

検査年月日 年 月 日		検査者氏名				事業者印
検査項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

前記の各項は「労働安全衛生法」に定められており、違反のないよう十分ご注意下さるようお願い致します。

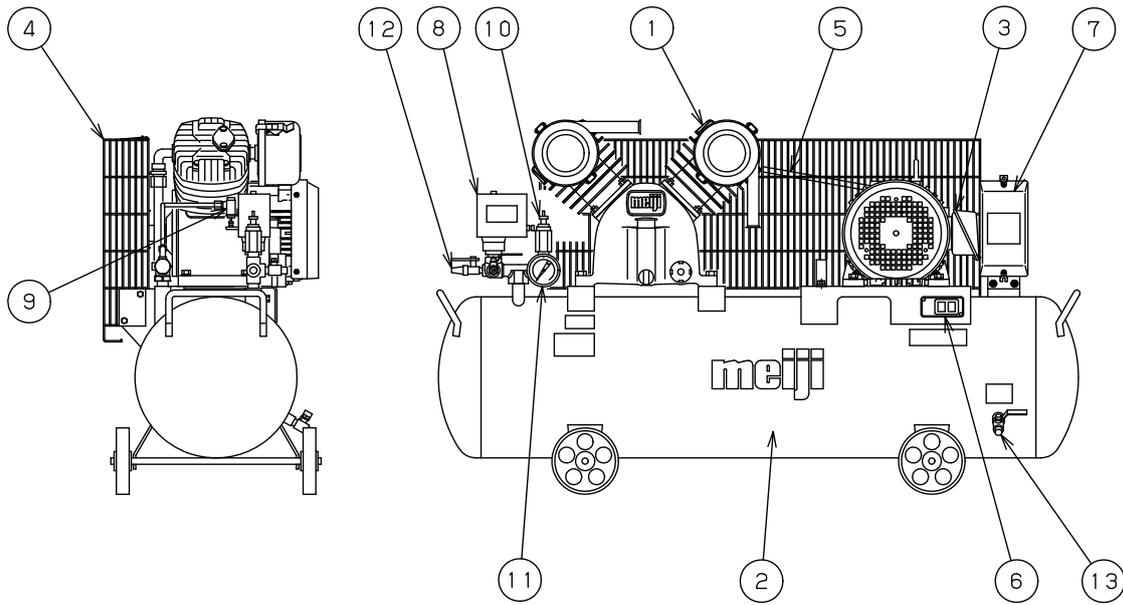
各部の名称とはたらき

GN-08D 5/6P



1	圧縮機本体	圧縮空気を製造する本体です
2	空気タンク	圧縮機本体で製造された圧縮空気を貯蓄する容器です。
3	モータ	圧縮機本体を動かすための駆動源です。
4	ベルトガード	回転部への巻き込みを防止します。
5	Vベルト	モータの動力を圧縮機本体に伝達します。
6	押し釦スイッチ	運転・停止をするスイッチです。
7	アンローダパイロット弁	空気タンク内圧を検知し、圧縮機本体の運転を制御する装置です。
8	安全弁	空気タンク内圧の異常な圧力上昇を防止する安全装置です。
9	圧力計	空気タンク内圧を表示します。
10	空気弁	空気タンク内の圧縮空気の放出を開閉する弁です。
11	ドレン弁	空気タンク内に溜まるドレン水・オイル・錆などを抜く為の弁です。

GH-22A 5/6P



1	圧縮機本体	圧縮空気を製造する本体です
2	空気タンク	圧縮機本体で製造された圧縮空気を貯蓄する容器です。
3	モータ	圧縮機本体を動かすための駆動源です。
4	ベルトガード	回転部への巻き込みを防止します。
5	Vベルト	モータの動力を圧縮機本体に伝達します。
6	押し釦スイッチ	運転・停止をするスイッチです。
7	電磁開閉器	電気回路の開閉およびモータの過負荷保護をする装置です。
8	圧力スイッチ	空気タンク内圧を検知し、圧縮機本体の運転を制御する装置です。
9	レリーズ弁	圧力スイッチの作動と同時に、圧縮機本体出口から空気タンク間の圧縮空気または中間段の圧縮空気を大気に放出する装置です。
10	安全弁	空気タンク内圧の異常な圧力上昇を防止する安全装置です。
11	圧力計	空気タンク内圧を表示します。
12	空気弁	空気タンク内の圧縮空気の放出を開閉する弁です。
13	ドレン弁	空気タンク内に溜まるドレン水・オイル・錆などを抜く為の弁です。

お使いになる前に

1. 現品の確認

- コンプレッサの形式・周波数が注文通りか、お確かめください。
- 運送中の破損・変形箇所等の有無をお確かめください。
- 付属品の有無を確認してください。

付 属 品	数 量
取扱説明書（コンプレッサ・モータ）	各 1
圧力容器明細書 （GH-15 5/6P、GH-22A 5/6P のみ）	1

2. 移動時の注意

● フォークリフトで運搬

フォークリフトで運搬するときは、製品の重心に気をつけて、転倒しないように注意してください。

● 開梱後の移動

台木から製品を下ろし、車輪で移動する場合は、通路に障害物がないか確認してください。また、製品質量の重い製品は必ず2名以上で運搬してください。腰を痛めるなど怪我を負う恐れがあります。

● 吊り上げての移動

吊り具は製品質量にあったものを使用し、空気タンクの下、車輪の外側を通してください。その際、製品に傷を付けないよう保護をしてください。

製 品 質 量 (kg)	
GN-08DS	6 4
GN-08D 5/6P	6 2
GH-08DS 5/6P	6 5
GH-08D 5/6P	6 3
GH-15 5/6P	9 9
GH-22A 5/6P	1 2 3



吊り上げる際は、製品の下や周辺に人がいないことを確認してください。また吊った時に製品に傾きが無いことを確認した後に運搬してください。落下・転倒事故などが起きると大変危険です。

3. 電気配線

● 配線について

電気工事は、電気設備基準及び内線規定に従って行ってください。

電源は、元電源とコンプレッサとの間に、配線用漏電遮断器を必ず1台ごとに設けてください。但し、GN-08DS・GN-08D 5/6P、GH-08DS・GH-08D 5/6Pは電動機保護用漏電遮断器をご使用ください。

<配線参考資料>

形 式	出力 (kW)	電 源 (V)	配 線 (mm ²)		電磁開閉器 端子サイズ	漏電遮断器(A) (感度電流 30mA)
			電源コード	アース線		
GN-08DS	0.75	単相 100	3.5	2.0	押し釦スイッチ M3.5	電動機保護用 16
GN-08D 5/6P	0.75	三相 200	2.0	2.0	押し釦スイッチ M3.5	電動機保護用 4
GH-08DS	0.75	単相 100	3.5	2.0	押し釦スイッチ M3.5	電動機保護用 16
GH-08D 5/6P	0.75	三相 200	2.0	2.0	押し釦スイッチ M3.5	電動機保護用 4
GH-15 5/6P	1.5	三相 200	2.0	2.0	M3.5	20
GH-22A 5/6P	2.2	三相 200	2.0	2.0	M4	32



上記の配線サイズより細い線を使用されますと、モータ損傷などの原因になります。また、出火の原因にもなります。

電気事情の悪い場所、配線が長くなる場合は、お買い求めになった販売店にご相談下さい。



元電源は規定電圧・規定周波数で必ず使用してください。規定値以外で使用すると、起動不良やモータの損傷などの原因となります。

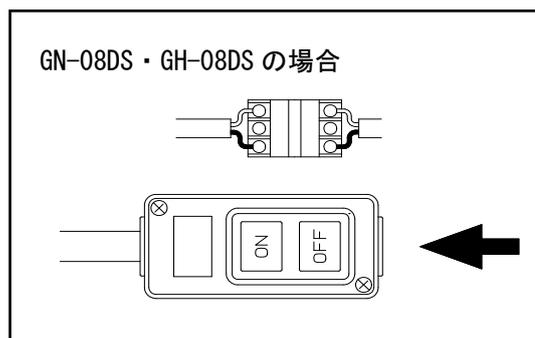
配線が細い・長すぎる場合、電圧降下が大きくなりコンプレッサが回転しない場合があります。

● 配線方法

1. 電源コードの繋ぎ込み箇所

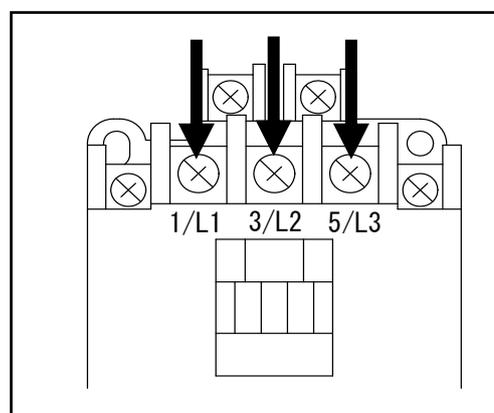
- ① 【 GN-08DS ・ GN-08D 5/6P
GH-08DS ・ GH-08D 5/6 】

押し釦スイッチに繋いでください。



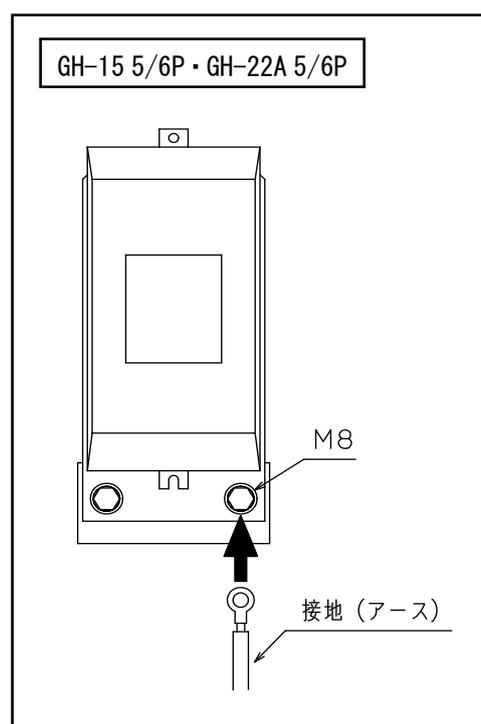
- ② 【 GH-15 5/6P ・ GH-22A 5/6P 】

電磁開閉器の 『 1/L1 ・ 3/L2 ・ 5/L3 』 に
繋いでください。



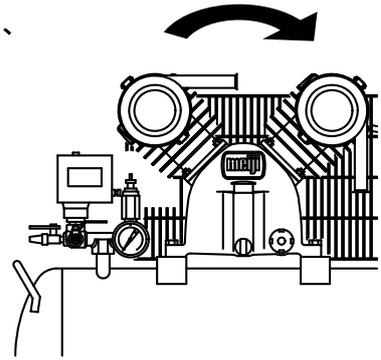
2. 感電防止の為、接地（アース）をとってください。

接地（アース）はD種接地工事を行ってください。



● **回転方向の確認**

配線後、押し釦スイッチを『 ON 』にし、1～2秒運転し、
 圧縮機本体のベルト車の回転方向を確認してください。
 回転方向は、正面から見て 右回転（時計回り） です。



回転方向が逆の場合は、電源コード3本のうち
 2本を入れ換えると回転方向が変わります。

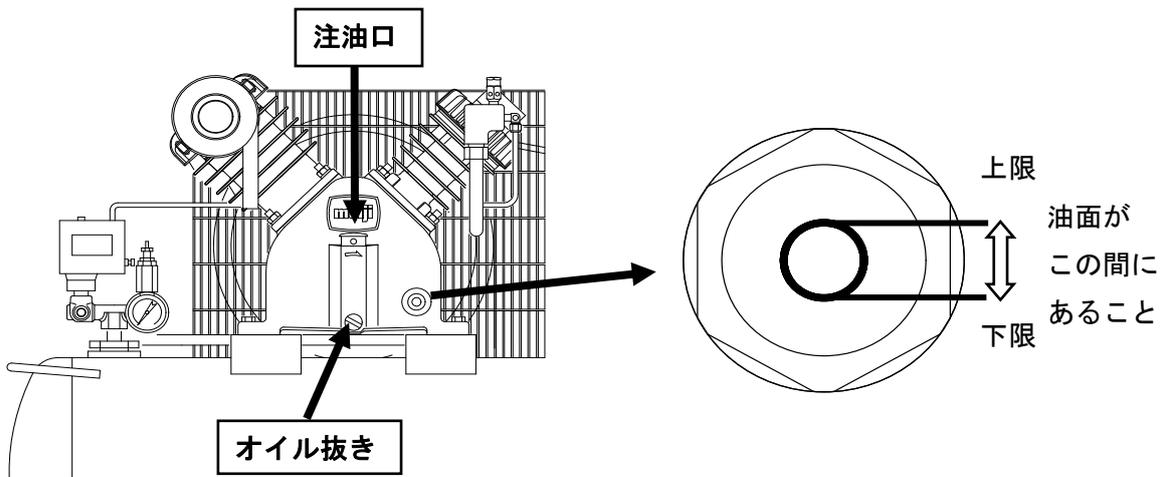


逆転のまま使用されますと、冷却・潤滑不足となり、
 圧縮機本体の故障・焼付きの原因になります。

4. 潤滑油の確認

● **作業前・作業後に必ず点検を**

コンプレッサが停止している時、油面計の赤丸の間に油面があるか確認してください。
 赤丸の下限に近い場合は、補給してください。
 また、定期点検基準表（ P.28 ）をもとに 定期的に全量交換 してください。



明治純正の潤滑油を使用してください。

純正以外の潤滑油を使用されますと、オイルアップ・オイルアップによる
 カーボンの蓄積・カーボンの発火、また摺動部の焼付きなどが発生しやすく、
 大きな事故の原因となります。

● **明治純正コンプレッサオイル**

CO4A-68 (4L缶)
 └── 4L

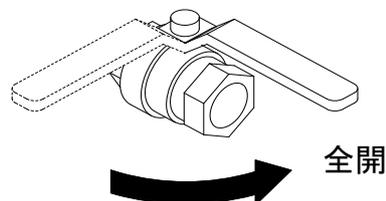
1L・4L・20Lがあります。

運転のしかた

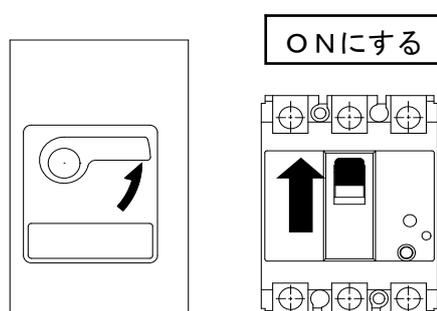
1. 試運転

● 始 動

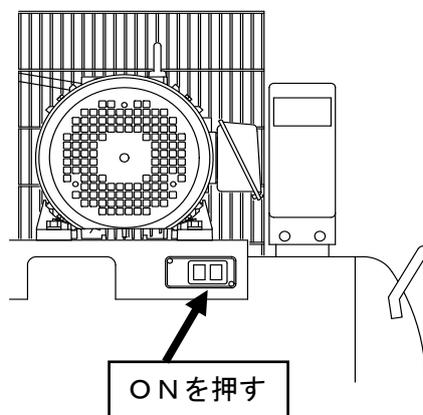
- ① 空気タンクの圧力を『ゼロ』にするために、空気弁・ドレン弁を全開にしてください。



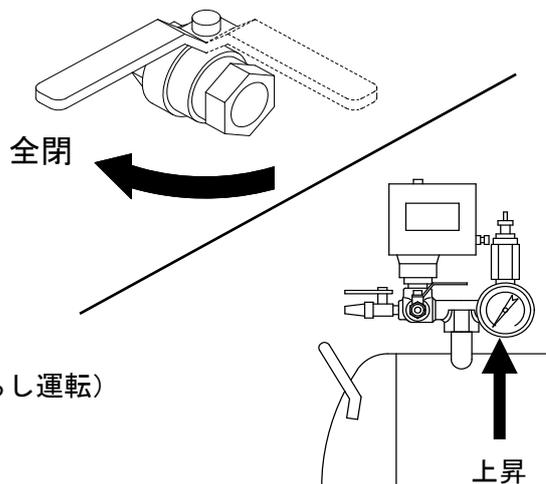
- ② 主電源、漏電遮断器を『ON』にしてください。



- ③ 押し釦スイッチを『ON』にしてください。



- ④ コンプレッサの無負荷運転を充分行った後、空気弁・ドレン弁を閉じて、空気タンクの圧力が上昇することを確認してください。



10分以上の無負荷運転（慣らし運転）を行ってください。

GN形

圧力が徐々に上がり、作動圧力になると、アンローダパイロット弁が作動し、アンロード運転（無負荷運転）をします。

モータの運転は継続しています。

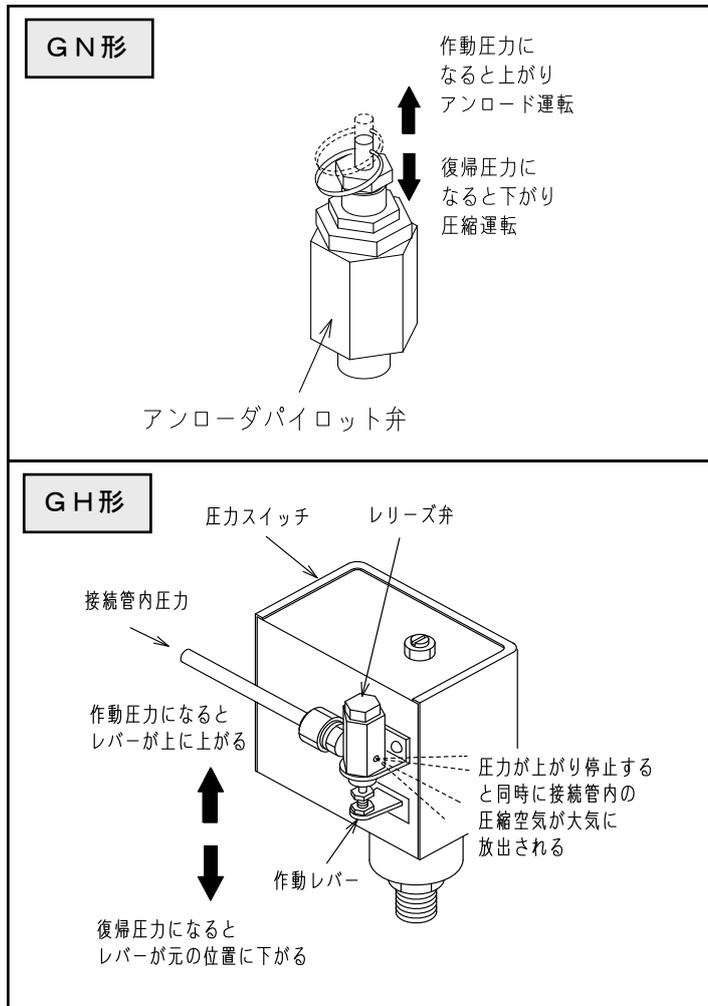
復帰圧力になると、アンローダパイロット弁の作動が解除され圧縮運転に切り替わります。

GH形

圧力が徐々に上がり、作動圧力になると圧カスイッチが作動し、モータの運転を停止させて圧縮機本体の運転を止めます。

同時に、リリース弁から配管内（圧縮機本体出口～空気タンク間、または中間段）に残留している圧縮空気を大気に開放します。

復帰圧力になると、圧カスイッチの作動が解除され、圧縮運転に切り替わります。



	復帰圧力 (MPa)	停止圧力 (MPa)
GN形	0.78	0.98
GH形		



注意

アンローダパイロット弁・圧カスイッチが作動圧力になっても作動しない、また作動圧力以上に圧力が上昇し、安全弁が吹く場合は、作動圧力以下で作動するよう調整してください。（調整方法：P.19・P.20）



注意

圧カスイッチが作動し、コンプレッサの運転が停止したときに、リリース弁からの排気が無い場合は、リリース弁と作動レバーの隙間の調整を行ってください。（調整方法：P.21）

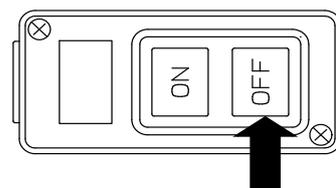
- ⑥ 空気タンク内の圧縮空気を消費し、圧力が徐々に下がり、復帰圧力になると圧カスイッチが作動し、圧縮運転を始めます。

※ 作動圧力・復帰圧力で作動することを確認してから作業を始めてください。

※ 空気弁・ドレン弁を閉じた状態で、コンプレッサが停止した後、圧力が若干低下することがありますが、これは空気タンク内の温度が下がるためで、故障・漏れのためではありません。

● 停止

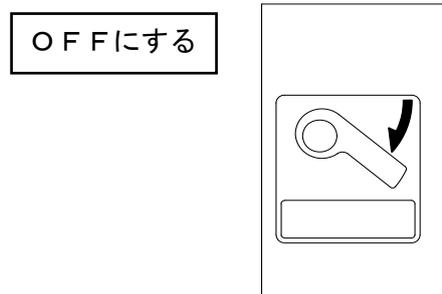
- ① 押し釦スイッチを『OFF』を押して
運転を停止させてください。



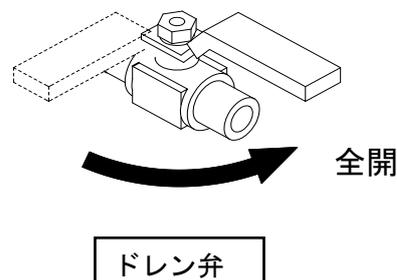
注意

停止の際、GN形はアンローダパイロット弁が作動し、アンロード運転（無負荷運転）に切り替わった後、またGH形は圧力スイッチが作動し、リリース弁から圧縮空気が放出された後にスイッチを切ってください。再起動時のモータ・電磁開閉器の保護になります。

- ② 主電源を『OFF』にしてください。



- ③ 空気タンクの圧力があるうちに、ドレン弁を開けて圧縮空気とドレン水を放出してください。



警告

空気弁・ドレン弁を開けるときは、周囲に人がいないことを確認して、徐々に開けてください。 急に開けると、圧縮空気・ドレン水が一気に出て危険です。
また排出中は空気弁・ドレン弁の前に手などを出さないでください。錆などが飛び出して怪我をすることがあります。

2. 日常運転

● 始 動

- ① 空気弁・ドレン弁を閉じてください。
- ② 主電源を『 ON 』にしてください。
- ③ 押し釦スイッチの『 ON 』を押してコンプレッサを始動してください。
- ④ アンローダパイロット弁（GN形）、圧カスイッチ（GH形）の作動圧力まで圧力が上昇し、圧カスイッチが作動した後に空気弁を開いてください。



始動したとき、必ずコンプレッサの異常（異常振動・異常音・潤滑油の有無や劣化・機器の作動不良）がないか確認したうえでご使用ください。

● 停 止

- ① 作業終了後、押し釦スイッチを『 OFF 』にして、コンプレッサを停止してください。停止するときは、アンローダパイロット弁・圧カスイッチが作動した後に、停止させてください。
- ② 安全のため、主電源を『 OFF 』にしてください。
- ③ 空気タンクに圧力があるうちに、ドレン弁を開けて圧縮空気とドレン水を放出してください。

空気弁・ドレン弁を開けるときは、周囲に人がいないことを確認して、徐々に開けてください。急に開けると、圧縮空気・ドレン水が一気に出て危険です。また排出中は空気弁・ドレン弁の前に手などを出さないでください。錆などが飛び出して怪我をすることがあります。

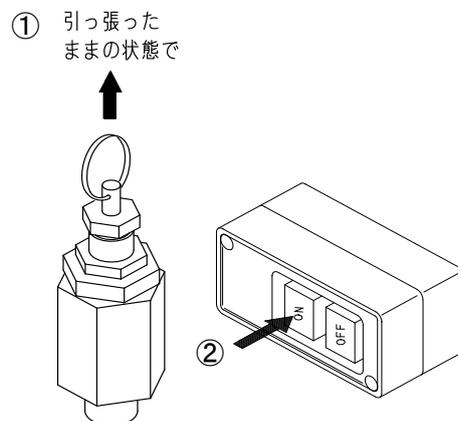


圧縮機本体内・配管内・空気タンク内に圧縮空気を残したままにしておくと、ドレンが発生する場合があります。潤滑油と混ざり乳化（白濁）や錆びの発生を起こす恐れがあります。潤滑油が乳化すると潤滑機能が低下し、機器の損傷に至る恐れがあります。

3. 停電したとき

1. 主電源を『 OFF 』にしてください。
2. 押し釦スイッチを『 OFF 』にしてください。
3. 空気タンクの圧力を『ゼロ』付近まで落としてください。
4. 停電が復帰し、再度作業をする時は、始動と同じ手順で始動してください。

やむを得ず、空気タンクに高い圧力があるうちに電源を入れたとき、GN形の場合は、アンローダパイロット弁のリングを引っ張ったまま、アンロード状態にさせて起動してください。モータが起動した後にリングを離して圧縮運転させてください。GH形は、必ず空気タンクの圧力を『ゼロ』付近まで落とした後に、起動させてください。



警告

運転中に停電が起きた場合、必ず主電源・押し釦スイッチを『OFF』にしてください。アンローダパイロット弁・圧力スイッチが作動する手前で停止し、そのままの状態ですべての電気が復旧した時に、自動で運転を開始してしまい、手や衣服が近くにあると巻き込まれるなどの恐れがあります。また、配管中に圧縮空気が残留している場合、再起動時モータに過負荷が掛かる恐れがあります。

4. 潤滑油が乳化（白濁）する場合

1. コンプレッサの運転（圧縮）時間が1分以下で、停止が30分を超えるような状態（空気消費量が少ない）が継続すると、潤滑油が乳化（白濁）する場合があります。
2. 潤滑油が乳化（白濁）した場合は、**全量交換**してください。
潤滑油が乳化すると潤滑機能が低下し、機器の損傷に至る恐れがあります。



注意

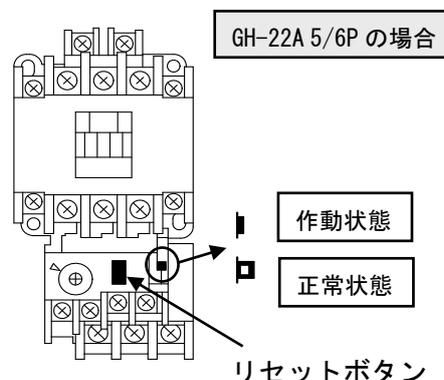
明治純正の潤滑油を使用してください。（P.13）

純正以外の潤滑油を使用されますと、オイルアップ・オイルアップによるカーボンの蓄積・カーボンの発火、また摺動部の焼付きなどが発生しやすく、大きな事故の原因となります。

5. コンプレッサの異常停止について

- **電磁開閉器のサーマルリレーが作動して停止した時**
電源・コンプレッサの異常が考えられます。

- ① 主電源・押しボタンスイッチを『OFF』にしてください。
- ② 電源事情・端子の接続不良・断線など点検してください。
- ③ 作動の原因が解消されたら、サーマルリレーのリセットボタンを押して解除してください。



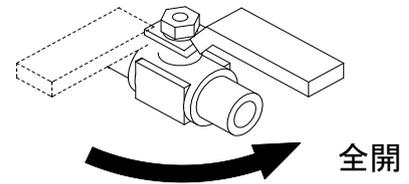
コンプレッサの原因調査は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所にお問合せください。
原因を解消せずリセットし使用すると、再度サーマルリレーが作動する恐れがあります。

定期の整備・保守・点検

1. 日常の点検・手入れ

● ドレン抜き

一日の作業が終わりましたら、空気タンクの圧力があるうちにドレン弁を開けて圧縮空気とドレン水を排出してください。



ドレン弁

● 圧力計の指示・作動確認

作動圧力（停止圧力）・復帰圧力の指示・作動、及び空気タンク内の圧縮空気を抜き、大気圧とした時、指針が『ゼロ』になることを確認してください。

指示・作動が異常の場合は、圧力計を交換してください。

復帰圧力	作動圧力（停止圧力）
0.78 MPa	0.98 MPa

● アンローダパイロット弁

圧力を一定の範囲で保ち、作動圧力到達後、アンロード運転（無負荷運転）をさせる弁です。0.98MPaで圧力上昇が停止し、アンロード運転を行います。

空気タンク内圧が0.78MPaまで下がると、アンロード運転が解除され、圧縮運転を始めます。

圧力差が0.2MPa無い場合、ライナーを抜いてください。

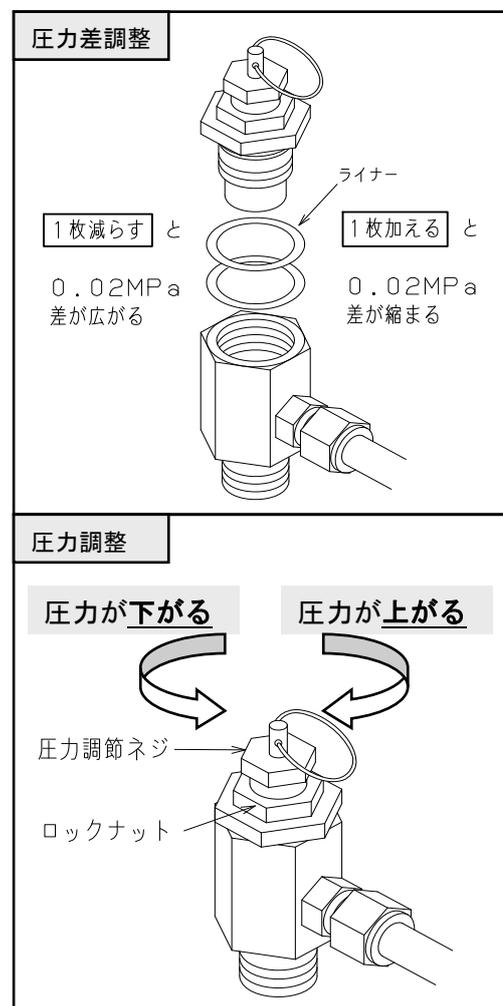
圧力差が0.2MPaより広い場合、ライナーを追加してください。



圧力差調整を行う前には、必ず 空気タンク内圧を『ゼロ』にしてください。

作動圧力が0.98MPaを超える場合、ロックナットを緩め、圧力調整ネジを【左】に回し、設定値に調整してください。

作動圧力が0.98MPaより低い場合、ロックナットを緩め、圧力調整ネジを【右】に回し、設定値に調整してください。

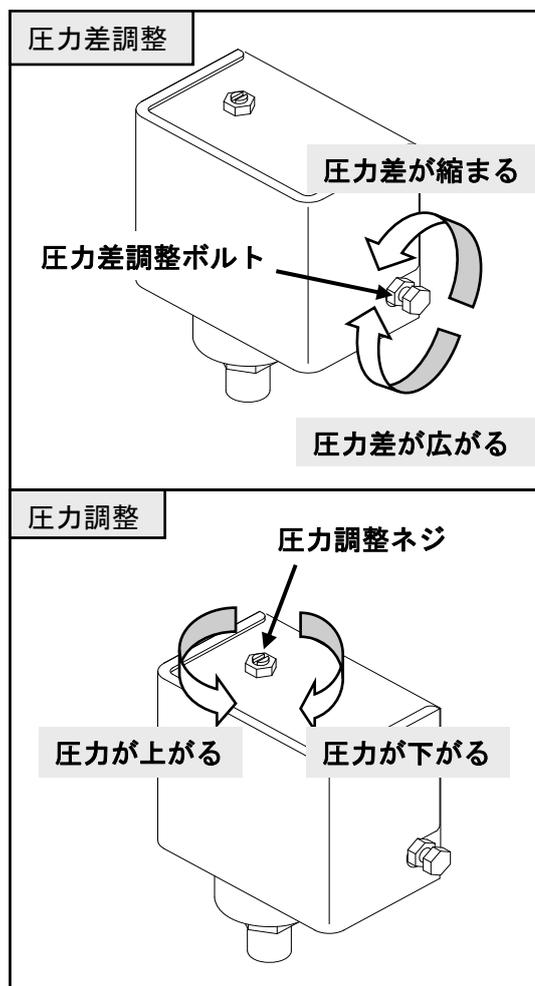


● 圧力スイッチ

圧力を一定の範囲で保ち、モータを自動発停させるスイッチです。

空気タンク内圧が 0.98MPa でモータが停止し、0.78MPa まで下がるとモータが再起動し、圧縮運転を始めます。

- ① 圧力差が 0.2MPa 無い時、また 0.2MPa 以上あるときは、『圧力差調整ボルト』で調整してください。
- ② 作動圧力設定値を超える場合、または設定値より低い場合は、『圧力調整ネジ』で調整してください。



警告

本機を清掃・点検・整備をするときは、必ず主電源・押し釦スイッチを『OFF』にし、【整備中】であることを明らかにして作業を始めてください。

電源が入った状態で作業を行うと、回転部に手や衣服が巻き込まれたり感電の恐れがあり大変危険です。また圧力があるときに、圧力計などの加圧部を交換しようとする、その部品が飛び、怪我・破損・事故の危険があります。



警告

空気弁・ドレン弁を開けるときは、周囲に人がいないことを確認して、徐々に開けてください。 急に開けると、圧縮空気・ドレン水が一気に出て危険です。

また排出中は空気弁・ドレン弁の前に手などを出さないでください。錆などが飛び出して怪我をすることがあります。



注意

圧力スイッチの圧力差は 0.15MPa 以下 にはしないでください。コンプレッサが誤作動を起こし、電磁開閉器・モータの損傷に至る恐れがあります。



注意

アンローダパイロット弁、圧力スイッチの設定値の調整を行う場合、最高圧力 0.98MPa 以上に設定しないでください。 圧縮機本体・モータの損傷の原因となります。

● レリーズ弁の作動確認

圧カスイッチが作動し、レリーズ弁押し上げ調整ボルトがレリーズ弁の弁棒を押し上げ、接続管内または中間段の圧縮空気を大気に放出しているか確認してください。

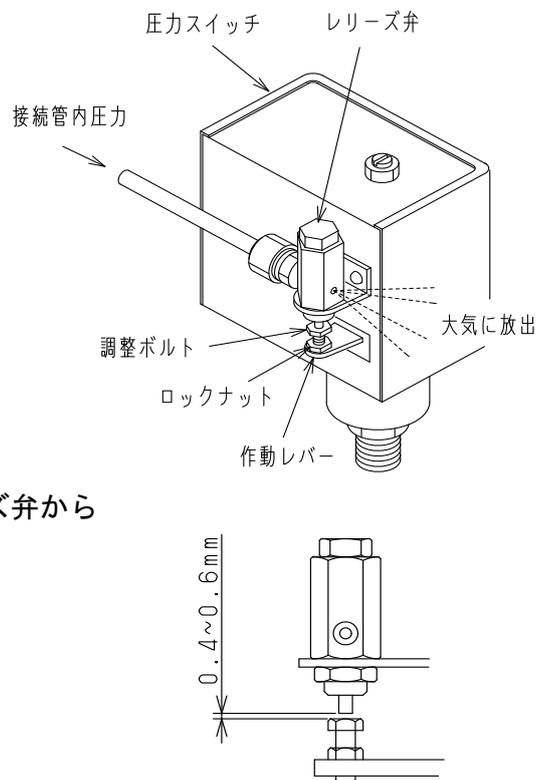
※ 弁棒とレリーズ弁押し上げ調整ボルトの隙間は **0.4~0.6mm** に調整してください。

◆ 隙間が狭い場合

運転中に調整ボルトと弁棒が接触し、レリーズ弁からエア漏れすることがあります。

◆ 隙間が広い場合

圧カスイッチが作動しても、レリーズ弁が作動しないことがあり、その場合圧縮空気が大気開放されず、再起動時にモータが過負荷になる恐れがあります。



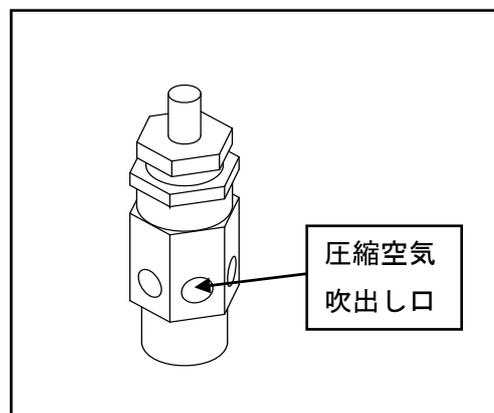
レリーズ弁から圧縮空気の排出が止まらない場合
または、圧縮運転（再起動）しない場合には
指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● 安全弁

安全弁はコンプレッサの損傷や空気タンクの破裂を防止する大切な安全装置です。

ご使用時、吹き出し口からの漏れの確認を行い、また定期的に作動のテストを行ってください。作動の確認は、停止圧力付近で、安全弁の先端をペンチ等で引っ張って、圧縮空気が噴出することを確認してください。

または、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所にお問合せください。



安全弁は必ず作動の確認を定期的に行ってください。
コンプレッサの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり
重大な怪我や死亡の原因になります。



安全弁の作動の際、大きな音に驚いて怪我をしないようご注意ください。

空気タンク用・中間圧力用、共に安全弁が吹出した場合や点検・整備・交換などについては、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所にお問合せください。

● 異常音・異常振動

各部に異常な音や振動がないか、確認してください。

異常な音や振動が発生している場合には、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● エア漏れ

圧縮空気が漏れている箇所がないか、点検をしてください。

エア漏れを発見した場合は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。



エア漏れを確認するときは、必ず主電源・押し釦スイッチを『OFF』にし【整備中】である事を明らかにして作業を行ってください。急にコンプレッサが再起動すると、回転部に手や衣服が巻き込まれる恐れがあり、大変危険です。

● 潤滑油の点検

潤滑油は、作業前・作業後に必ず点検を行い、コンプレッサの停止中に油面計の赤丸の間にあるか点検してください（P.13）。油量が下限値に近い場合は補給してください。

また、定期点検基準表（P.28）をもとに 定期的に全量交換 してください。

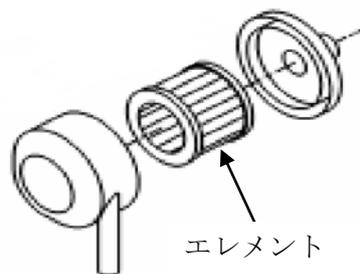
2. 1ヶ月ごと または 200時間ごとの点検・整備

● ボルト・ナット・ネジの緩み

緩みがないか点検し、緩みを発見した場合は、増し締めなど適切な処置をしてください。

● 吸込みろ過器のフィルタエレメントと清掃

- ① 吸込みろ過器のカバーを外してください。
- ② フィルタエレメントを取り出して、中性洗剤で洗淨後、乾燥させた後に再度装着してください。



エアダスタを使用して清掃するときは、目にゴミなどが入る恐れがありますので、保護メガネを使用してください。

またエアの圧力が強いとエレメントが破損する恐れがあります。



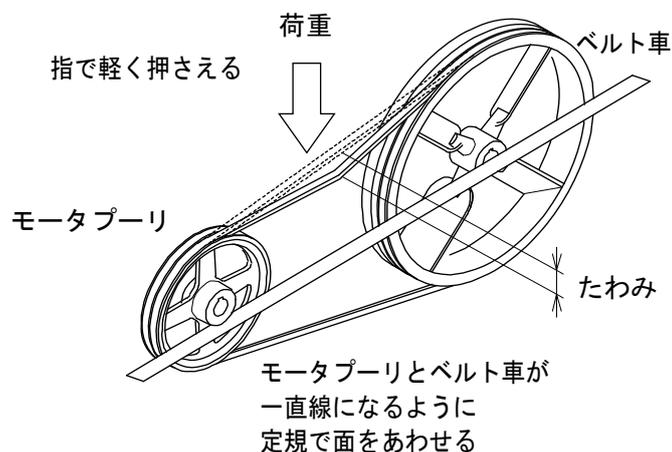
吸込みろ過器のフィルタエレメントの目詰まりが激しい場合は、新品と交換してください。吐出し空気量の減少、寿命の低下やエレメントの破損・圧縮機本体の損傷の原因になります。

● Vベルトの点検・調整

ベルトの張りが緩いとベルトがスリップしてコンプレッサの性能が十分に発揮できません。また、ベルトの寿命低下につながり、異常音・異常振動・ベルトの反転・脱落・破断の原因になります。ベルトの張りが緩い場合は、適正な強さで張ってください。

また、ベルト車とモータプーリのV溝の中心にズレや傾きがないか確認してください。

ベルトを張り直すときは、下図のように定規などで、ズレや傾きが**2mm以下**になるよう確認しながら調整してください。



ベルト種類	形式	たわみ荷重 (N)		たわみ量 (mm)
		新品	張り直し	
A	GN-08DS	40~45	35	10
	GN-08D 5/6P			
	GH-08DS	30~35	30	
	GH-08D 5/6P			
	GH-15 5/6P			
	GH-22A 5/6P	20~25	20	



Vベルトを強く張りすぎると、軸受寿命を低下させますので充分注意してください。また、油分や粉塵などの付着によりVベルトの寿命が低下してしまいます。油分や粉塵などが付着しないよう定期的に清掃してください。

3. 6ヶ月ごと または 1200時間ごとの点検・整備

● 潤滑油の全量交換

6ヶ月または1200時間経過ごとに、潤滑油を全量交換してください。

※ 潤滑油の色が濃くなっているなど劣化が激しい場合は、定期点検時間に関係なく速やかに全量交換してください。(P.13)

◆ 全量交換時の潤滑油量

形 式	全量交換時の油量 (CC)
GN-08DS	230
GN-08D 5/6P	
GH-08DS	230
GH-08D 5/6P	
GH-15 5/6P	400
GH-22A 5/6P	580

● 明治純正コンプレッサオイル

CO4A-68 (4L缶)
└ 4L

1L・4L・20L缶があります。

※ 注油口キャップのOリングが劣化していないか確認してください。

キャップが軽く抜ける場合や軽く嵌る場合は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

※ 潤滑油を全量抜いた後、油面計が黒く汚れていないか確認してください。

潤滑油の痕が付き、潤滑油が入っているように見える場合があります。

その場合は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。



注意

潤滑油がこぼれた場合は、ウエスなどで拭き取ってください。

すべて転倒し、怪我をする恐れがあります。

● 圧力上昇時間の確認

- ① 押し釦スイッチを『 OFF 』にし、空気タンクの圧力を『 ゼロ 』にします。
- ② 空気弁・ドレン弁を閉じ、押し釦スイッチを『 ON 』にし、コンプレッサを起動させ『 ゼロ 』 ⇒ 『 停止圧力（最高圧力） 』までの圧力上昇時間を測定します。

各機種種の圧力上昇時間は、下表の時間を目安にしてください。

大幅に時間がかかる場合は、機器・継手・接続管などからのエア漏れが無いことを確認した後、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

形 式	停止（最高）圧力 (MPa)	空気タンク容積 (L)	圧力上昇時間 (分：秒)
GN-08DS	0. 9 8	3 8	3 : 3 5
GN-08D 5/6P			
GH-08DS	0. 9 8	3 8	3 : 3 5
GH-08D 5/6P			
GH-15 5/6P		7 1	3 : 5 5
GH-22A 5/6P		8 0	2 : 5 0

● フェザー弁・その他の漏れ点検

- ① 圧縮機の運転中に空気弁を閉じ、停止圧力（最高圧力）で圧縮機が停止、またはアンロード運転に切り替わった後、押し釦スイッチを『 OFF 』にしてください。
- ② この状態で、約30分間放置した後、圧力降下が停止圧力（最高圧力）の15%以内であることを確認してください。



圧力降下が15%を超える場合は、フェザー弁、その他部品・継手等から漏れている可能性があります。

その場合は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● ベルト車・モータプーリ

ベルト車・モータプーリに緩みやガタ・ズレがないか点検してください。

点検後、異常がありましたら指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

3. 1年ごと または 2400時間ごとの点検・整備

● 吸込みろ過器のフィルタエレメントの交換

吸込みろ過器のフィルタエレメントを交換してください。エレメントの汚れ・目詰まりした状態で使用を続けると、吐出し空気量の減少、寿命の低下やエレメントの破損・圧縮機本体の損傷の原因になります。

● Vベルトの点検

劣化・張りの緩みを点検してください。ベルトが緩んでいる場合は、P.23の「1ヶ月ごと または 200時間ごとの点検・整備」の項目を参照の上、張り調整してください。

● 接続管の点検・清掃

コンプレッサの性能を保つため、エア漏れ、亀裂、カーボンの堆積がないか点検・清掃をしてください。

● フェザー弁・その他の漏れ点検

P.24の「6ヶ月ごと または 1200時間ごとの点検・整備」の項目を参照の上、点検してください。

● 空気タンクの点検

空気タンクは第二種圧力容器に該当し、自主点検が義務付けられています。

P.6の定期自主検査を必ず実施してください。点検は毎年1回以上行い、その記録を3年間保存してください。

- ① 本体の損傷の有無
- ② ふたの締付けボルトの摩耗の有無
- ③ 管および弁の損傷の有無

● コンプレッサの点検

ボルト・ナット・ネジの緩み、エア・潤滑油漏れなどの点検、異常な振動・音・温度の有無などを点検してください。

異常がある場合は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● ピストンリングの点検

ピストンリングが摩耗すると、吐出し空気量の減少・寿命低下によりコンプレッサの性能が充分発揮できなくなります。

また、オイル消費量が増加し、コンプレッサの損傷に至る恐れがあります。

摩耗状態・摩耗量や傷の有無の点検は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

4. 2年ごと または 4800時間ごとの点検・整備

● シリンダ・ピストン・ピストンピンの点検

シリンダ、ピストンの摩耗・傷により吐出し空気量の減少、寿命低下に至りコンプレッサの性能が充分発揮できなくなります。

また、オイル消費量が増加し、コンプレッサの損傷に至る恐れがあります。

摩耗状態や傷の有無の点検は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● 各玉軸受け・ピン軸受部の点検

軸受け部の摩耗や異物の混入などにより、傷の発生・異常音などがおこり、コンプレッサの損傷に至る恐れがあります。

摩耗状態や傷の有無の点検は、指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● Vベルトの点検・交換

Vベルトの伸び・傷み・摩耗などを点検し、異常がある場合は交換してください。

P.22の「1ヶ月ごと または 200時間ごとの点検・整備」の項目を参照の上、交換・張り調整してください。

● ピストンリングの交換

オイル消費量の増加、性能低下、寿命低下、異常音・異常振動の発生の原因になります。コンプレッサの性能を維持する為に、ピストンリングを交換してください。

点検・交換は指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

● フェザー弁の交換

フェザー弁が傷むと、吐出し空気量の減少、寿命低下の原因となり、コンプレッサの性能を充分発揮できなくなります。コンプレッサの性能を維持する為に、フェザー弁を交換してください。点検・交換は指定サービス店・特約店・販売店・弊社営業所に連絡してください。

5. 1ヶ月以上 使用されていない場合

1ヶ月以上使用されておらず、運転を再開する場合は、必ず軽負荷（空気弁・ドレン弁を全開にした）で10分以上運転してください。急に圧縮を開始すると、潤滑油の乾きにより焼きつく恐れがあります。

また長期間（6ヶ月以上）使用しない場合には、錆の発生による損傷を防ぐ為、6ヶ月毎に

- ① 軽負荷（空気弁・ドレン弁を全開にした状態）で10分以上運転してください。
- ② 潤滑油を全量交換してください。（経年劣化します）

また、保管場所は湿気が少なく、ゴミや埃のかからない場所を選んでください。

定期点検基準表

1. コンプレッサの性能・寿命を維持し、長期間 良好な状態で運転するには、保守点検を充分に行う必要があります。
2. 点検時期は、コンプレッサの使用状況、取扱方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが、一応の目安として下表に示します。
点検後、交換時間になっていなくても、交換の必要があるときは、**適宜交換**してください。
3. 本機の空気タンクは、第二種圧力容器に該当しますので、毎年一回以上の定期検査を行い、その記録を3年間保存してください。
4. 運転時間または経過年月数のうち、**どちらか早く達した時点で**、点検を実施してください。

	毎 日			点検事項	1ヶ月毎	6ヶ月毎	1年毎	2年毎	備 考
	使用前	使用中	使用后		200時間	1200時間	2400時間	4800時間	
油面計の油面	◎		◎	潤滑油の量					
異常音・振動		◎		各部の点検					
ドレン抜き			◎	タンク内のドレン					
圧力計	◎			指示の確認					
吸込ろ過器				フィルタの汚れ・目詰まり	○		▲		
Vベルト				伸び・痛みの点検	●		○	▲	
潤滑油				点検・全量交換	▲ 初回のみ	▲			
ボルト・ナット				緩み点検・締め付け	○				
圧カスイッチ アンローダパイロット弁		◎		作動確認					
レリーズ弁		◎		作動・漏れの確認					
安全弁		◎		作動確認					
エア漏れ		◎		接続部の漏れ点検			○		
ベルト車				緩み点検		○			
モータプーリ				緩み点検		○			
空気タンク				清掃・損傷・漏れ			○		
シリンダ				磨耗状態・傷点検				○	
ピストン				磨耗状態・傷点検				○	
ピストンリング				磨耗状態・傷点検			○	▲	セット交換 (3種)
フェザー弁セット				圧力降下・損傷		○		▲	
玉軸受け				回転状況・磨耗状態				○	
圧縮機全体				清掃・整備			○		

- ・ ○印は、運転開始後・部品交換後からの点検時期を示します。
- ・ ●印は、購入後初めての点検時期を示します。
- ・ ▲印は、部品交換時期を示します。

指定サービス店・特約店・販売店または弊社営業所に御連絡ください。

※部品交換は**明治純正部品**を必ず使用してください。

不調原因とその処置

不調になった場合の原因とその処置について、下表にまとめましたのでご活用ください。

状 況	原 因	処 置
異常音・異常振動	弁プレートの取付ネジの緩みでプレートが躍る	交換
	ベルト車締め付けボルトの緩み	ボルトを締め付ける
	ベルトの芯が出ていない	ベルトを平行に張り直す
	各締め付け部のボルト・ナットの緩み	各部点検し締め付ける
	玉軸受・ニードルベアリングに異物または摩耗	サービス店・販売店に連絡
	圧縮機本体内部の摺動部の接触	
	モータプーリのずれ	
吐出し空気の過熱	クランクピン軸受け摩耗	交換
	吐出し弁プレートの損傷	サービス店・販売店に連絡
	吐出し弁プレートにカーボン付着	
	圧カスイッチ・アンローダパイロット弁の調整不良	
	接続管にカーボン堆積	清掃・交換
	周囲温度が高い	周囲温度を下げる
	レリーズ弁の作動不良	交換
ベルト車が逆回転	配線直し、正回転にする	
圧力が上がらない	ピストン・ピストンリング・シリンダの摩耗	サービス店・販売店に連絡
	吸込み・吐出し弁プレートの漏洩または損傷	
圧力上昇が遅い	締め付け部からの漏洩	漏洩部を締め付ける
	圧力計の故障	交換
	Vベルトの緩み	規定の張りになおす
	圧カスイッチ・アンローダパイロット弁の調整不良	調整・交換
	レリーズ弁からの漏れ	調整・交換
潤滑油が早期に なくなる	ピストン及びシリンダの摩耗	サービス店・販売店に連絡
	ピストンリングの摩耗	
	部品の破損	
運転中の急停止	ピストン・シリンダ・メタルなど摺動部の焼き付き	販売店に連絡
	部品の破損	
	電磁開閉器の損傷	
	吐出し圧力の異常上昇による過負荷	
	モータの過負荷によるサーマルリレーの作動	電源・電線の点検・処置
	電圧降下	
	電線コードが細い・長すぎる	
	電線の接続不良	
漏電遮断器の作動	作動原因を調べ処置する	

仕 様

仕様は、予告なしに変更することがあります。

■ 圧縮機本体

形 式	出 力 kW	シリンダ径×行程×シリンダ数 mm × mm × 数	潤滑油量（上限） CC	質量 kg
GNO-1C	0.75	65 × 40 × 1	230	17
GHO-1C	0.75	65 × 40 × 1	230	17
GHO-2D	1.5	65 × 70 × 1	400	25
GHO-3DP	2.2	65 × 70 × 2	580	31

■ 空冷式エアコンプレッサ

形 式		GN-08DS GH-08DS (単相 100V)	GN-08D 5/6P GH-08D 5/6P (三相 200V)	GH-15 5/6P	GH-22A 5/6P
項 目					
出力	kW	0.75		1.5	2.2
圧縮機本体形式		(GN type) GNO-1C (GH type) GHO-1C		GHO-2D	GHO-3DP
制御圧力	MPa	0.78~0.98			
回転速度	min ⁻¹	1040		975	985
吐出し空気量	L/min	80		160	240
タンク容積	L	38		71	80
空気弁口径		G1/4×1		G1/4×1	G1/4×2
全幅×奥行×高さ	mm	(GN type) 907×370×674 (GH type) 907×370×653		1128×394×757	1240×409×710
質量 (モータ込)	kg	(GN type) 64 (GH type) 65	(GN type) 62 (GH type) 63	99	123
騒音値	dB (A)	71		73	74

※ 周囲温度は2~40°C（運転中）の環境下でご使用ください。

※ 吐出し空気量は、最高圧力時に吐出す量を吸込み状態（大気圧）に換算した値です。

※ 騒音値は、正面 1.5m全負荷運転時に無響音室で測定したときの代表値です。

サービスと保証について

● 保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から **1年間又は2400時間**のいずれか早い方とします。

本取扱説明書あるいは仕様図（仕様書）に従った正常な使用状態で、設計・製造に起因する故障または破損を生じた場合は、無償にて修理・交換致します。

ただし、保証期間中でも、以下場合は**有償修理扱い**とさせていただきます。

- 1) 需要家側の取扱上の過失
- 2) 仕様条件を越える過酷な環境（異常温度・粉塵が多い場所等）に設置し使用された場合
- 3) 日常点検・定期点検または整備を怠った場合
- 4) 本機を無断で改造された場合
- 5) 故意に起こされた事故・故障
- 6) 運転で誤操作された場合
- 7) 火災、地震、水害及び、盗難などの被害にあった場合

また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象にならないことがあります。

● 本保障は日本国内で使用される場合に限りです。

● 本装置の故障・不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次的損害に対する保証は致しません。

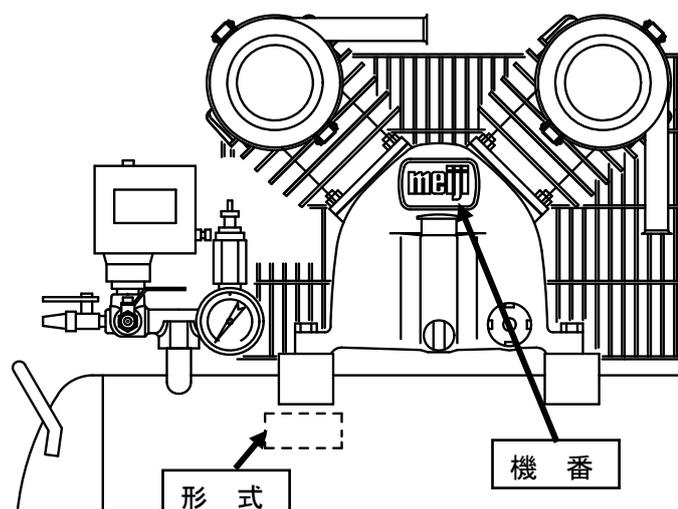
重要な製造設備で使用される場合は、コンプレッサが停止した場合や、故障に備えて予備機やそれに変わる装置をご用意お願い致します。

● アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるときや不審な点及びサービスに関しては、指定サービス店・特約店・販売店または当社営業所に、お問い合わせください。

【連絡していただきたい内容】

- ◆ 形 式
- ◆ 機 番（周波数）
- ◆ 故障内容（できるだけ詳しく）



お客様メモ

おぼえのため、記入されると便利です。

形 式	
製 造 番 号	
耐 圧 番 号	
ご 購 入 年 月 日	年 月 日
ご 使 用 開 始 年 月 日	年 月 日
ご 購 入 先	TEL



株式会社 **明治機械製作所**

営業品目

- ★小型往復空気圧縮機
- ★スクリーコンプレッサ
- ★ブースタコンプレッサ
- ★スプレーガン
- ★塗装排気装置
- ★パッケージコンプレッサ
- ★オイルフリースクロールコンプレッサ
- ★付属空気機器
- ★自動塗装装置
- ★エンジンコンプレッサ
- ★乾燥炉

ホームページアドレス <http://www.meiji-air.co.jp/>

弊社の本社・営業各支店の住所・電話番号・ファックス番号は、別紙の一覧表をご参照ください。